



# リカバリー

JIS A 6909  
可とう形改修塗材CE  
可とう形複層塗材CE

※JIS 対応組み合わせ詳細につきましては、  
弊社ホームページまたは、各支店、営業所までご確認ください。

「リカバリー」は、JIS A 6909 可とう形改修塗材CE 可とう形複層塗材CE  
の認証を受けた安心の製品です。  
ポリマーセメント系で新築から改修用途まで幅広い適応性があります。

## 特長

### 01 有機無機ハイブリッド塗料

アクリル樹脂エマルジョンの基材と特殊セメントの硬化剤を  
ベースとした無機有機複合形の可とう形仕上塗材です。

### 02 耐久性

無機質の特長・厚膜施工により長期にわたり優れた耐久性を  
発揮します。

### 03 工期短縮

主材が下地調整を兼ねていますので工期の短縮が可能です。

### 04 幅広い適合性・適応性

密着性が良く、弾性系塗材にも密着します。

### 05 透湿性

湿気を外部へ放出し、内部結露や塗膜の膨れの発生を軽減します。

## 用途

一般建築物の内外装及び改修用途

## 適用下地

コンクリート・セメントモルタル・各種旧塗膜 等

## ●標準施工仕様

工程	材料・調合	施工用具・条件	塗回数	間隔時間(hr)	所要量	
素地調整	ゴミ、未硬化セメント粉末、砂塵、油脂分などの付着物をワイヤーブラシ、かわすき、サンドペーパー、ウエスなどで除去し、乾燥した清浄な面とします。					
主材塗り	ゆず肌状[ローラー]仕上げの場合	リカバリー 基 材：15kg 硬化剤：3.6kg 清 水：0~0.7L	多孔質ローラー	1	16以上	12~23㎡/18.6kg 0.8~1.5 kg/㎡
	ゆず肌状(吹付け)の場合	リカバリー 基 材：15kg 硬化剤：3.6kg 清 水：0.7~1.2L	リシンガン □径：4~6mm 吹圧：0.5~0.6MPa	1	16以上	11~23㎡/18.6kg 0.8~1.7kg/㎡

(注)①上記の各数値は、全て標準のものです。施工方法、施工条件により各々多少の幅を生じることがあります。

②塗付量は刷毛又はローラー施工の場合で所要量の80~90%、吹き付け施工の場合で所要量の60~70%を目安にして下さい。

③適合する上塗材(JIS 対応組み合わせ)につきましては、各支店、または営業所までご確認ください。



# リカバリー

## 荷 姿

基 材 NET 15kg/缶入  
硬化剤 NET 3.6kg/袋入



### 注 意 事 項 (無機系仕上塗材)

#### 【施工上の注意事項】

- 下地がコンクリート、モルタルの場合は、下地の乾燥を十分行ない、含水率10%以下、pH10以下で施工してください。
- かびや藻が発生している場合は、塩素系漂白殺菌剤「KSクリーナー」などで殺菌洗浄を行ってください。
- ヤニ、シミが著しい場合は水洗き後、下塗りとして水系ヤニ、シミ止め白色下塗材「シミナイト」を使用しヤニ、シミ止めを行った後上塗りを行ってください。
- コンクリート下地の目録の劣化が著しい場合や吸込みの著しい場合は、劣化塗膜を除去した後、「キクスイ浸透性プライマー-E」や、「キクスイSPパワーシーラー」を使用してください。
- 押出成形セメント板、GRC板、ケイ酸カルシウム板などには、下塗りとして「キクスイSPパワーシーラー」や、「キクスイプライマー-EPW」を使用してください。
- ALCやコンクリートなどで異色、段差などがある場合は、セメント系下地調整塗材「BR#15」等で処理してください。
- 無機塗料、特殊下地の塗装及び特殊塗装の場合は、最寄りの弊社営業所にご相談ください。
- 暑熱しやすい建材（軽集モルタル、ALC、窯業系サイディング、発泡プラスチック使用建材など）に塗装する場合は、暑熱や水の影響、下地の状態、塗装時の環境など、いくつかの条件が重なることで建材の変形、塗膜の膨れ、剥離が生じることがあります。ご採用に当たっては最寄りの営業所にご相談ください。
- 大きな動きが予想される部位への塗装は、塗膜がひび割れまたは剥離する可能性があります。
- 下地が弾性系塗膜の場合には、弾性系上塗材を使用してください。
- 塗膜の乾燥過程で水分の影響を受けた場合（高湿度、結露、降雨等）塗膜表面が白化する場合があります。施工場所の気温が5℃以下、湿度85%以上又は結露の発生が考えられるなど、水分の影響を受ける可能性がある場合は、施工を行わないでください。また、低温又は高湿度時は、乾燥が遅くなりますので施工を行わないでください。
- 外部の施工で降雨、降雪のおそれ、または強風のおそれがある場合は施工を行わないでください。
- 絶えず結露が発生するような部位、場所への塗装はしないでください。
- 直射日光下で施工する場合は、適切な養生をし、下地表面の急激な温度上昇を防止してください。
- 施工時は換気を十分にしてください。
- 養生時は養生を十分に行ってください。
- 施工面とその周辺（車や付帯設備を含む）や床などに汚染や損傷を与えないように注意し、必要に応じて、あらかじめ施工面周辺に適切な養生を行ってください。
- 乾燥途中で降雨等が予想される場合は、シート養生を行うなどして、塗膜表面に水分が当たらないようにしてください。
- 製品は空練りを行った後、練り混ぜを行ってください。
- 製品はミキサーでタマが残らないように十分に練り混ぜてください。
- 練り水及び希釈水は必ず清水を使用してください。
- 練り混ぜ後、可使用時間以内に使い、切ってください。また、可使用時間も温度、希釈によって変わりますので、練り混ぜ後はなるべく早く使い、切ってください。
- 可使用時間の過ぎた材料を、練り直して再度使用しないでください。
- 練り直し、水を加えての練り直しはしないでください。
- 既着塗膜タイプに製品に現場で、セメント、砂等の指定材料以外を使用しないでください。
- 材料の希釈量は所定の量により、所定の所要量を守り事前の試験塗りなどで決定してください。希釈の過多、不足は色や膨れ、不足、仕上がりムラの原因になります。
- 各種施工仕様（記載の所要量及び間隔時間を守って施工し、適正な塗付量を確保してください）。
- 色、模様決定に当たっては事前に見本板を確認してください。
- 被塗物の形状、膜厚、塗り回数、希釈量などの違いにより実際のつやと異なって見える場合があります。また、刷毛・ローラー塗装時の塗布箇所でも起こる場合があります。特に艶調整品は、被塗物の形状、素地の状態、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間等により、実際の艶と若干違って見える場合がありますので、試し塗りの上、本施工を行ってください。
- 既存塗膜の剥離箇所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
- ローラー塗りの場合は、ローラー目も同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、仕上がり感が異なって見えることがあります。
- 傷などで補修塗りが必要な場合がありますので、補修用に使用塗料の控えを取っておき、同一塗料、同ロット、同一方法で補修してください。
- 他の材料と混合して使用しないでください。
- 水性塗料には動物毛の刷毛は固まり塗装に支障が出ますので化繊の刷毛を使用してください。
- 表面に白華が発生した場合は、ブラシ等により除去してから次工程の作業を行ってください。

- 上塗りのローラー塗装において、綿毛のローラーで水系塗料を塗装し泡が発生した場合は、糸毛のローラーを使用してください。
- 使用後は刷毛やローラーなどは十分に洗浄してください。
- 上塗材に溶剤系の製品を取り扱う場合には、特に火気に注意し、消防法及び労働安全衛生法等を厳守してください。
- 施工箇所が高湿である場合は、製品をできるだけ気温の低い所に保管し、あらかじめ冷却した水で練り混ぜてください。
- 刷毛塗りやローラー塗り、スプレー塗りが混在する場合、施工方法の違いで若干の色相差が生じます。希釈量を調整するなどして塗装してください。
- 上塗材のつや調整品は、（おけ、ローラーでの塗装はムラが出やすくなります。スプレー塗装をお勧めします）。
- 上塗材のつや調整品は、塗料が分離しやすいので、良くミキサーで混ぜながらご使用ください。
- 上塗材において、濃色や原色に近い色彩では塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類などに触れる可能性がある部位への施工は行わないでください。施工する場合は、クレーンによる保護塗装を行ってください。
- 上塗りに黄色、赤色、青色、緑色の彩度の高い色を塗装する場合、隠れ性が不足する場合がありますのであらかじめ中塗りとして共色を塗装してください。
- 上塗材において、希釈した材料を後日使用すると、色相が変わる場合があります。希釈した材料は、その日のうちに使い、切るようにしてください。
- 防藻、防カビ効果は、繁殖を抑制するものです。施工部位の形状、構造、環境条件によっては防藻、防カビ効果が十分に発揮されない場合があります。また、すでにカビ、藻が繁殖している場合は、下地処理として除去及び殺菌処理を行ってください。
- 施工部位により、傾斜壁の下端部、水切りの無い部位、窓周り水切りが不十分な場合、雨掛りの少ない部位などは低汚染性が十分に発揮されない場合があります。
- 施工後、塗膜が乾燥するまでの間に、塗膜表面に長時間水がかかった状態になりますと、艶抜け、ひび割れ、変色等が発生する場合があります。
- 各シーリング材は可塑性の含まないノンブリードシーリング材を使用してください。また、シーリング材の上へ直接施工する場合、シーリング材の種類や材齢によって塗膜が付着しない場合があります。詳しくは最寄りの営業所にご相談ください。
- 磁器タイル洗浄用の酸が表面に付着すると変色したり、溶解することがあります。磁器タイルの洗浄用の酸が塗膜面に付着する可能性がある場合は、必ず施工面のマスキングを行ってください。
- 直射日光や屋外、0℃以下の保管はしないでください。
- 建築用仕上塗材（ISA 6909）複層塗材および可とう形改修塗材は、下塗材・主材・上塗材を同一メーカーの指定された製品を使用しないと、JIS規格品とはなりません。

#### 【安全衛生上の注意事項】

- 製品の取り扱いについての一般的な注意事項の詳細はSDS（安全データシート：JIS SDS）を参照してください。
- 取扱後は手洗い、うがい、を十分に行なってください。
- 適切な保護手袋、保護眼鏡、防毒・防塵マスクなどを着用してください。
- 目に入った時は直ぐに水で洗い、速やかに医師の診断を受けてください。
- 誤って飲み込んだ場合は速やかに医師の診断を受けてください。
- エポキシ樹脂系の材料は、皮膚にかぶれを引き起こす恐れがあります。皮膚に付着しないよう特に注意してください。
- 皮膚について場合は、多量の水と石鹸で洗ってください。また、皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断を受けてください。
- 粉じん、蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合は、安静にし、必要に応じて医師の診断を受けてください。
- 使用後保管する際は無希釈の状態できっちり密栓して冷暗所に保管し、できるだけ早く目で使用してください。
- 火気、スパーク等の発火源があると、粉じん爆発の恐れがありますので、取り扱いには十分注意し、火気のあるところでは使用しないでください。
- 取り扱い中は、粉じんがたないよう注意し、また、取り扱い後は密閉した容器に保管してください。
- 缶の取扱は手さげ専用です。ロープやフックで吊り下けると外れることがあり危険です。絶対に行わないでください。
- 子供の手の届かない所に保管してください。
- 塗料や塗料の付いた布などを処分する際は、法令に従い産業廃棄物として処理してください。
- 塗料、塗装器具を洗浄した汚水、塗料の付いた布などはそのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼす場合がありますので、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処理してください。

### 取扱店

## 菊水化学工業株式会社

本社 名古屋市中区錦2丁目19番25号 日本生命広小路ビル  
☎ 052-300-2222(代)

仙台支店 ☎ 022-706-5710

東京支店 ☎ 03-3981-2500

名古屋支店 ☎ 0568-69-5200

関西支店 ☎ 06-7668-5320

福岡支店 ☎ 092-935-4610



●ホームページアドレス <http://www.kikusui-chem.co.jp/>